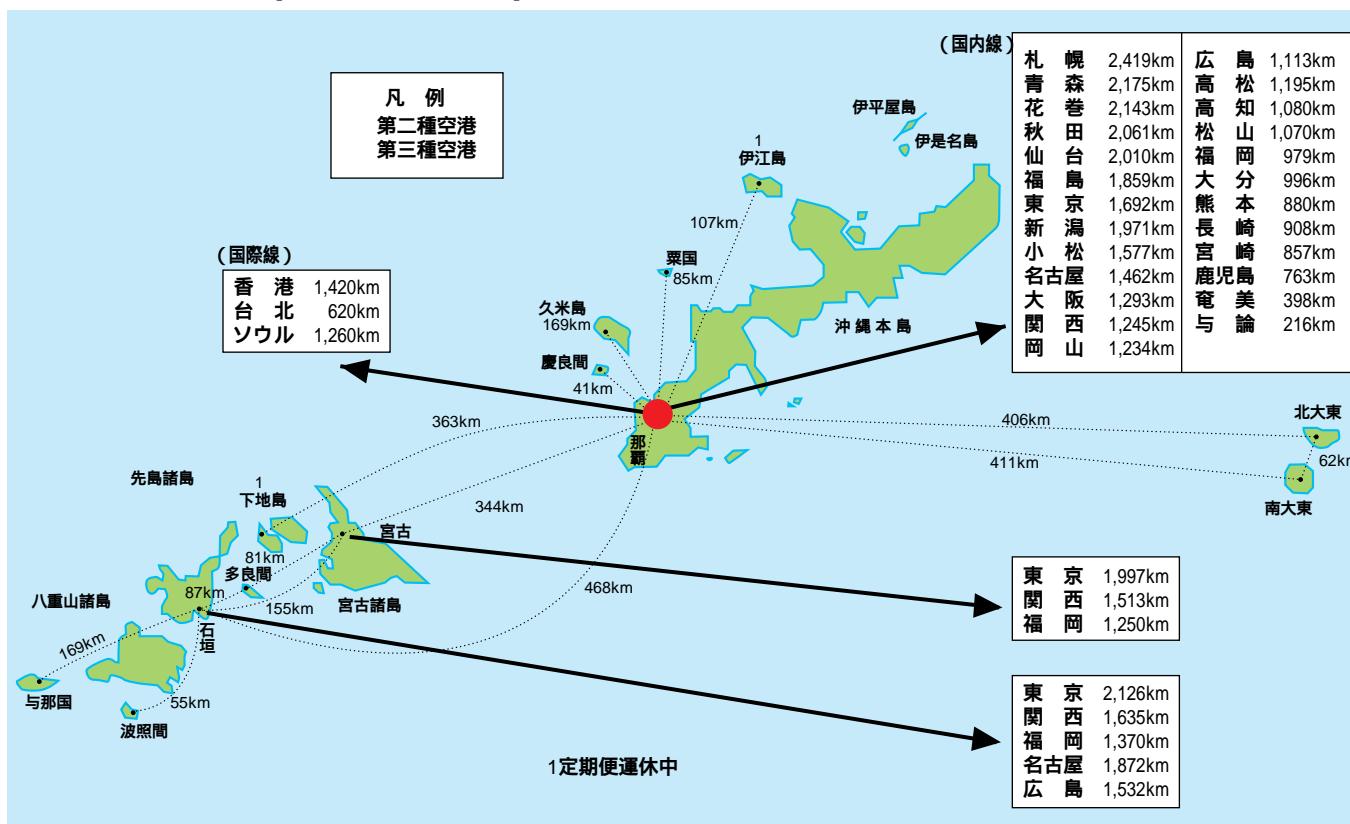


# Airport



沖縄県内空港分布図(平成11年3月現在)



いま沖縄では、新しい南の空の玄関口、那覇空港新ターミナル地域供用に向けて、島嶼である沖縄県では、航空輸送は県内外への必要不可欠な輸送手段であり、なかでも那覇空港は拠点空港として重要な役割を果たしています。しかし、航空需要の増加に対しても、施設自体の老朽化、本土線・離島線ターミナルビル等が分散していることによる乗り継ぎの不便さなど利便性が低下している状況です。そこで、計画容量を国内旅客、300万人と設定し、これに対応した施設整備を図っています。新たな国内旅客ターミナルビルは、本土線・離島線を統合し、直接航空機への乗降が可能なスポットをより多く確保できる「インガード方式」として、国際線ターミナルビル南隣接地に整備しました。

沖縄総合事務局では、新ターミナル地域において、駐機場を計画時の二十五スポットから四十三スポットへ増設する、ターミナルビル前の道路には、出発階と到着階に分離したダブルテイキ方式を採用して道路混雑の緩和を図る。駐車場についても、収容台数を四、四〇〇台と計画時の約3倍とする。新ターミナル地域の整備に伴って移転が必要になる整備地区は滑走路沖側に集約整備するなどの旅客の利便性を大幅に改善する内容の整備を行っています。

新国内線旅客ターミナルビルは、平成十一年五月二十六日に供用を予定して整備を精力的に進めています。この間であります、今後、新ターミナルビルに機能が移転した後には、エプロンの拡充等を進めいく予定です。

## エプロン

計画当初	25バース
計画	43バース
ターミナルビル供用時	38バース

## 内訳

大型機用	16バース
中型機用	8バース
小型機用	12バース
STOL用	2バース

## 道路

ターミナルビル供用時	2,400m
平面道路	1,310m
高架道路	

## 駐車場

計画当初	1,478台
計画	4,400台
ターミナルビル供用時	
一般車	1,533台
バス	79台
タクシー	約350台

いま沖縄では、新しい南の空の玄関口、那覇空港新ターミナル地域供用に向けて、島嶼である沖縄県では、航空輸送は県内外への必要不可欠な輸送手段であり、なかでも那覇空港は拠点空港として重要な役割を果たしています。しかし、航空需要の増加に対しても、施設自体の老朽化、本土線・離島線ターミナルビル等が分散していることによる乗り継ぎの不便さなど利便性が低下している状況です。そこで、計画容量を国内旅客、300万人と設定し、これに対応した施設整備を図っています。新たな国内旅客ターミナルビルは、本土線・離島線を統合し、直接航空機への乗降が可能なスポットをより多く確保できる「インガード方式」として、国際線ターミナルビル南隣接地に整備しました。

ターミナル地域の整備として、主に工事内容及び道路・駐車場の概要は以下の通りです。

# 新しい南の空の玄関口 那覇空港新ターミナル 地域供用に向けて

その7